
◇ 小西秀延君

○議長（山本浩平君） 休憩前に引き続き、一般質問を続行いたします。
10番、小西秀延議員、登壇願います。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 10番、会派かがやき、小西秀延でございます。昨年作成して昨年度より始まりました財政健全化プランが本年度本格的にスタートするという年になっております。このプランの遂行が本町の未来の財政を大きく左右するものと私は考えております。また、もう一方では、国の地方創生に向けた動きも本格的に動き出しました。こちらも本町の未来の姿に大きく影響を与える施策と認識しております。そこで、本日の質問では、その2項目について質問をさせていただきます。昨日の同僚議員の質問で理解できたところもございますが、通告に従い、質問をさせていただきたいと思っております。それでは1項目の財政健全化プランについて質問をいたします。1点目は、昨年スタートし本年度本格的なスタートを迎えております財政健全化プラン。26年度のスタート年次の状況をきちんと把握しておく必要があるというふうに考えております。そこで、質問ですが、①として、平成26年度の町債残高と前年比について伺います。②といたしまして、財政健全化比率について伺います。③といたしまして、財政健全化プランに入っていない大型事業について伺います。町が町立病院の存続を決断してから改築の質問が数名の同僚議員から出されておりますが、その他公共事業等総合管理計画において予定されている大型事業はどのようなになっているのか、お伺いいたします。④として、現在の収支状況についてお伺いいたします。

2点目は、プラン上の問題点についてであります。現在プランに従い、大町商店街にある公衆トイレは閉鎖になっておりますが、たびたび会合・会議などさまざまなものに出席をさせていただきますが、席上で大町のトイレ閉鎖はいかなるものかという意見が私の耳に多数入ってまいります。私も当初は役場にもトイレがあるのだから、それでよいのではないかという考えでございました。しかし、利用者のほとんどは車を利用できない高齢者だというのが現実だということです。商店街やバスを利用した際、トイレに歩道橋を利用してのトイレの移乗は非常に困難だということでもあります。また、そのことが白老町の町民サービス低下の象徴のようにとらえられているという話が入ってまいります。私はもう少し高齢者や障がいを持つ方に配慮があってもよかったのかなという考えに変わってきております。そこで、町としての見解をお伺いしたいと思います。以上でございます。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

〔町長 戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君） 「白老町財政健全化プラン」についてのご質問であります。

1項目めの「平成26年度決算状況」についてであります。

1点目の「町債残高と前年比」につきましては平成25年度末残高は、一般会計145億600万円、特別会計90億3,500万円、企業会計14億2,600万円で、各会計の合計額は249億6,700万円になっ

ています。26年度末残高は、一般会計139億1,400万円、前年比4.1%減、特別会計86億8,600万円、前年比3.9%減、企業会計13億3,600万円、6.3%減で、各会計合計額は239億3,600万円、前年比4.1%の減になっており、前年度より各会計合計で10億3,100万円減少しており、今後も毎年10億円程度の返済が進んでいくことを見込んでいます。

2点目の「財政健全化比率」につきましては、財政健全化プランを策定し、財政健全化に向けた基本方針の目標に掲げた実質赤字比率、連結実質赤字比率の発生をさせない取り組みや「公債費負担適正化計画」に基づき実質公債費比率を18%未満に改善する計画を進めております。

財政指標のうち、健全化基準を上回っている実質公債費比率は25年度21.6%で、26年度数値につきましては現在決算事務を進めているため、数値については算出できないものでありますが、実質公債費比率は、前年、前々年の数値が算定数値に用いられ3カ年の平均数値になることから26年度数値は同程度の見込みであります。

3点目の「財政健全化プランに入っていない大型事業」につきましては、本町では、本年度に「公共施設等総合管理計画」の予算措置を行い、事業の準備を進めておりますが、施設を設置してから数十年が経過しており老朽化が著しい施設が存在することや、改修費用が増嵩する施設があること認識しております。

計画策定に当たっては、白老町が所有する建築物その他工作物について、全施設の調査を行い統廃合計画や改修費用、実施年度を計画に盛り込んでいきたいと考えております

4点目の「収支状況」につきましては、現段階の速報値としては、実質収支3億7,259万7,000円、財政調整基金2億2,166万円、各基金積立金4億8,747万4,000円の決算見込みとなっております。

なお、実質収支の黒字要因につきましては、町税3,154万円、普通交付税9,435万2,000円、特別交付税1億3,402万7,000円の増加と不用額1億1,267万8,000円の内訳となっております。

2項目めの「プラン上の問題点」についてであります。

1点目の「大町商店街にある公衆トイレ」につきましては、財政健全化プラン策定時に調査特別委員会でもご説明申し上げたとおり、施設の老朽化や社会情勢の変化により公衆トイレ本来の目的に対する必要性が薄れてきていることから廃止を決定したものであります。プランの主旨である持続可能な行政運営が可能となる財政基盤の確立のため、ご理解いただきたいと考えております。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

[10番 小西秀延君登壇]

○10番（小西秀延君） それでは、再質問をさせていただきます。過去10年間の町債の残高は、平成22年度の287億4,834万円が最高額でございました。3セク債の兼ね合いもあったかと思いますが、平成17年度から平成23年度までは常に275億円以上で推移をしておりました。現在は249億6,700万円ということで、275億円で推移していたと考えますと、かなりな数値で30億円近くの数値になるかと思いますが、減少してきているというふうに私は大変高く評価ができるものではないかと考えております。やはり単年度の公債費を抑えていくことも重要ですが、

実際にある借金を着実に減らしていくことが非常に重要と考えております。プランでは町債を7億円以下、公債費を抑えつつも倍額以上の償還と大変厳しい環境ではありますが、ただ減らしていけばいいということでは私はないというふうにも考えております。やはりここはバランスも必要で、町民の安心安全が揺らがないよう町債を返済するのと同時にきちんとそこも守っていく、それがやはりトップとしての使命かなというふうにも考えておりますが、現在までの町債残高の評価と、町民の安心安全を考えたまちづくり町長はどのようにお考えか、そのお考えを伺いたいと思います。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 先ほどの答弁と重複するところがあるのですが、財政健全化プランはブレーキの部分で借金を返すだけだと何もしなければどんどん返していけますが、町民の安心安全を守るという観点と行政サービスも含めて進めなければならないところはきちんと進んでいくと。選択と集中という言葉をよく使っているのですが、やはりあれもこれもから、あれかこれかという時代に入ってきていると思っておりますので、その辺は公約や初年度に対する私の方針でまちづくりを考えていっておりますので、その辺で町民の安全と安心が守られているというふうに思っておりますし、バランスの話も出ましたので、今は特に高齢化の社会になっておりますので、高齢化も含めて社会保障や公共事業等々にもバランスよくまちづくりを行っていきたいと考えております。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 町長のおっしゃるとおりかなというふうに思います。やはりバランスが大事なところで、ただ町債を減らしていけばいいということではないなというふうに後ほどの質問でも、私の意見としてその点をもうちょっと述べさせていただきたいと思っております。それでは2点目の質問のほうに移りたいと思います。財政の健全化比率についてでございます。これは昨日、同僚議員からも同様の質問がありまして、プランの目標では実質赤字比率、連結が赤字比率は発生させないと。これはもう守られているということで、実質公債比率を18%未満に改善するというのがプランの目標になってございます。ただこちらのほう3年間の平均ということで、なかなか今年度だけがよかったから急に数値が変わるということではないというご回答を得ておりますので、その辺は私も納得をして今後の努力をお願いしたいというふうに思っているところであります。それでは、次ですが大枠ではプランの進捗状況は、良好であるというふうに判断してよいのかどうなのか、現状のところでは分析をされていると思いますが、それはどうなっているか、そして、今後公共施設のプランも入ってきます。将来的にこのプラン遂行はどのように展望をしていらっしゃるか、その点についてお伺いをしたいと思います。

○議長（山本浩平君） 安達財政課長。

○財政課長（安達義孝君） 答弁したとおり26年度の初年度の収支におきましては、実質収支が3億7,000万円ということで答弁いたしましたとおり、良好なものと評価しております。これにつきましては、当初見込んでいた内容に比較しまして町税が増加しました。これも昨日副町

長が答弁したとおりでございますけれども、税が伸びてるわけではございませんでして、予算を厳しく見込んでいたので、その分出ていたと。ただ、地方交付税の普通交付税と特別交付税は予想以上の災害がございましたから、その分の増額分が非常に大きかったというのがプログラムの初年度目の分析でございます。歳出も順調に、昨年度は大型の食育防災センターも建設をしたということで、通常年より相当予算的には多くなった状況でございますけれども、そういう中において、これだけの不用額を出したことについては十分評価できるものと捉えております。中でもきのうご報告したとおり、繰出金の各特別会計の努力も2,000万円ほどございましたのでプランの中で特別会計の収支改善を掲載している中では十分進められたものと評価しております。今後の展開におきましては、今年度も含めて将来的なものでございますけれども本年度も昨年度の繰越金が現在ございまして、補正財源については十分対応できる。また、昨日も大淵議員への答弁で副町長が答弁したとおり1億5,000万円ほどの保留財源を持っている中では来年度以降の公債費の繰り上げ償還も視野に入れながら、7月の交付税の算定結果によりましては、していくことによって相当数公債費を圧縮していけるという状況でございます。そうすると一般財源がその部分、通常計画しているよりも浮いてくるというような状況で投資的経費にもその部分回していける状況も出てくるようになります。ただ、今後公共施設等総合管理計画の中でどれだけ財政需要が出てくるかというのはまだ想定つきませんので、相当なボリュームとなってくると思われます。それをプラン中でしっかり執行していかないといけないという状況もございますけれども、懸念材料としては、国民健康保険税が本年度は赤字になりまして、27年度以降も見込み的に行けばまた赤字に、当面広域化するまで残り3年ございますけれども赤字になっていく状況でございます。これが昨年度は2,800万円でしたけれども、5,000万円、1億円となるとちょっと大きな懸念材料になっていくのかなと心配しております。また28年度は、19年に50数名の退職された職員の退職特別負担金が増してまいります。そのこともちょっと気がかりになっております。そういう状況踏まえて今後税がどのようになっているのか、ことしの税、大体もう住民税、固定資産税確定されまして予算をきっちり確保しても3,000万円ほど税では浮いている状況でございます。今後、収納率もですね予算どおりに徴収していかなければその部分はお出できませんけれども、去年わずかながら徴収率も下がっていますのでその状況も気になるところでございますけれども、現状では3,000万円ほど町税で予算を多く上回っている状況でございますから、そういうものを緩和しながら今後の歳入財源と将来的にかかわる歳出では公共施設管理計画でいく経費、象徴空間に係る経費、もしくは町立病院の経費などさまざまなものがございますので、それを28年度中でプランを見直しを行いまして、きちっとした財政運営をやっていきたいと考えていますので、来年度以降の懸案事項はただいま申し上げたとおり、わずかながらあるというような状況でございます。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 全般的には、良好であるというふうには捉えられるのかなと。ただ懸念材料として国保会計が赤字になっていると。今後ともまだ予想されるということでございます

ので、厳しい一面もあるなというふうに私も捉えさせていただきました。そこで、3番目の質問に移りますが、もっと大きな問題になってくるんじゃないかなと思われるものがプランに入っていない公共事業。先ほどのお答えでいただきました公共施設等総合管理計画、これが意外にボディーブローになってくるのではないかというふうに私は考えております。今回のプランで大型事業が入っていないのが今後の財政の弱点であるというふうに考えており、財政特別委員会からも今後の公共施設のあり方が指摘されておりました。7月以降に公共施設管理計画が策定されるということでございますが、ここに財政特別委員会のときにいただいた公共施設にかかわる経費というものがございます。こちらを私も何回か目をとおさせていただきました。ざっと見ただけでも、町民生活に大きくかかわる維持管理経費がわかるようにつくっていただいておりますが、これらの維持管理経費だけではなくこれからは先ほど町長の答弁にもありましたが、改修経費がかかってくるということが考えられると思います。病院は昨日も深い議論が行われましたので病院の議論はあえて避けてほかの例を挙げてみたいと思いますが、下水の終末処理場、桜丘運動公園の各施設、またごみの広域処理化に伴う登別で行っている広域処理施設の改修経費など、これらが財政健全化プランには入っていない。財政運営に大きくこれらがのしかかってくるのではないかというふうに私は考えておりますが、町としてはこれをどれくらいの改修経費を見込まれているのか、また現在まだそこまで進んでいないのか、近況をお知らせ願いたいと思います。

○議長（山本浩平君） 高橋企画課長。

○企画課長（高橋裕明君） これから想定される大型事業ということで、3カ所ぐらい出ておりましたが、それらの施設につきましては企画のほうにおきまして外部からの補助や交付金をなるべく多く獲得して、町の負担を減らしながら改修をしていきたいという方向で検討しているところでございます。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 先ほど同僚議員からもありましたが、やはり町民の安心安全を考えたときには急がなければならない部分もあるのではないかと私は考えております。今三つ挙げさせていただきましたが、なぜかという28年度の財政健全化プランの見直し、その中でやはりきちんと私はやるべきことはお金がかかってもやるべきではないかなという気持ちのもとで、三例を挙げさせていただきました。下水の終末処理場については、昭和44年に建設がされております。建設年度もさておきながら処理能力がどうなのかという問題もあろうかと思いません。また、桜ヶ丘運動公園においては、陸上競技場の管理施設の階段が一部さびて穴があいてしまってるような状態。また、野球グラウンド場に噴水の広場がありますが、その公園の遊具施設が老朽化によりまして一部使われていなかったり、橋が木製で雨ざらしなものですから、私1人が乗ってもきしんだり、これ大丈夫かなという不安に駆られたりするようなこともございます。また、登別の広域処理施設も従来これはきちんと両方で折半するものだという改修の約束もございます。それらを公共施設管理計画上に掲載するだけではなく、プランに入れてど

うなっていくのかというのをきちんと町民がわかるような形にすべきというふうに考えております。これらの施設だけでもある程度の規模のお金は私は支出としてかかっていくのではないかなと考えております。プランにきちんと掲載すべきと思いますが、町の考えをお伺いしたいと思っております。

○議長（山本浩平君） 白崎副町長。

○副町長（白崎浩司君） ご質問の中で個別の事業が例示として挙がりました。確かに下水道関係、それから、運動公園は今いわれる部分もさることながら競技施設そのものも年数もたつてというふうなこともございます。それからごみ処理についても、お話は登別のほうからの計画といいますかね、長寿命化というか、そういうふうなお話はきてますが、まだ金額的には明示できる状況にはございません。ただ、今ご質問のあるようにプランの中にといいお話をすけれども私どもも28年で見直しという中で、当初のプランでも言っているとおり今後の課題として項目としては載せています。その中で具体的に改修費が出た部分では、やはり見直しの中でプランの中に入れていかなければ何の意味もなしませんで、それについては明確な数字が出れば、その見直しの時点でプランに反映していこうという考え方はもっています。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 私は財政の特別委員会の委員長をさせていただいておりました。一番気になっていたのが26年、27年はこの大型事業をやらずに防災センターがありました、大きな既存の改修をやらずに進んできたというのは、本当に我慢してきたところも町民もあつたのかなというふうに考えております。ただ、今後まだ6年ぐらいプランの中ですので、その中で絶対町民の安心安全を守っていくんだということでは今副町長おっしゃられたとおり、プランをこの大型改修も入れて完全なものに仕上げるといのが、やはり議会側からの願いでもありますし、町民の本当の安心につながると思っておりますので、ぜひその点をきちっと数字が出た時点で明確化していくということを再度お願いをしておきたいと思っております。それと、もう一つですがプランどおりに進んでおります大町の公衆トイレでございます。これまで大体維持費といたしまして、100万円程度の維持費管理費がかかってきたかと思っております。ただ現在、財政の健全化の特別委員会の記憶によれば清掃は直接雇用をし、消費税等を省いてなるべくお金のかからないような形でできるというふうなお話も聞いておりました。そういう環境にあるのであれば、夏場だけでも何とか町民の願いをかなえるような方法を考えていけないのかというふうに私は思っております。だんだん年をとってくると本当にトイレも近くなります。それが本当に象徴的なふうにいわれるというのは私は大変残念でならない、議員として残念でならない気持ちを持ってしまう面でもありますので、その辺も考慮していただきながら、もう一度答弁いただければというふうに思います。

○議長（山本浩平君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） 今の大町の公衆トイレの関係でございますが、先ほど町長のほうから答弁申し上げましたとおり調査特別委員会等でもご説明申し上げましたが、まず財政

的な部分からの一面だと、地域の方のご理解、町民の方のご理解という意味合いでは地元の町内会、それから大町の商業振興会の方にも合意をいただきながらこの廃止という形を決定をさせていただいたというふうにこちらのほうでは考えております。いろいろご不便をおかけしている部分はあるかと思いますが、財政健全化という意味合いから答弁の繰り返しになってしまっていますが、そういう意味合いからこちらについてはポンアヨロの公衆トイレも同時期に廃止ということにさせていただきましたが、やはり廃止という形でご理解いただければと思います。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） プランで決まったことですので、簡単には覆るようなことはないと思って私も質問をさせていただいておりますが、財政に本当に余裕ができてきたときに、やはり町民の利便性、考えられていくところは考え直していくということも、28年度のプランの見直しでは必要なことかなというふうに、私は感じております。トイレだけに限らずなるべく不便をおかけしているところは不便をかけないように、そして、財政運営はきっちり行っていく、本当にバランスが難しいところかなと思いますが、お願いをしていきたいと思っております。

それでは、2番目の質問に移らせていただきたいと思います。2番目は、白老町まち・ひと・しごと創生（地方創生）についてでございます。（1）といたしまして、白老町創生総合戦略の内容についてでございます。①として、白老町は創生総合戦略は10月までに策定するとしております。ですが、他市町村、苫小牧を例に挙げれば苫小牧は12月までに策定するとしております。また各市策定期が、かなり異なっているようにとらえております。国は地方版総合戦略の早期かつ有効な策定実施には手厚く支援をすとしてしておりますが、その手厚いという部分、策定期の違いでどう変わってくるのか、その辺のご説明を願えればと思います。②といたしまして、国の総合戦略を見ても、その国の事業に対する目標数値はわかります。地方へ分配される予算規模や、交付金の内容がどうもいまいち見えてまいりません。どのような規模とどのような交付金になるのか、お伺いをしたいと思います。③、人口ビジョン・総合戦略について伺います。国は地方版総合戦略策定のための手引の中で、こちらですね、インターネットから私もこの総合戦略を勉強するために、そのどういうふうに策定されるだろうということで、手引を勉強させていただきました。本当にこの手引きを見させてもらうと、その使われている内容や語句、大変に町も勉強されて策定されているなという関心をしたところでございますが、あえてまたそこから私の意見もご指摘等も入れて質問させていただきたいと思っておりますが、その手引きの中で、国・道の内容を考え地方版の策定を促しております。それで、人口の目標設定の根拠、数値の設定は国の目標と整合性はとれているのかどうかお伺いしたいと思います。またもう1点、国との出生率、これも他の議員から出ておりましたが、出生率の差異についてこれは問題にならないのかお伺いしたいと思います。④といたしまして、白老町創生総合戦略で主な施策に北海道新幹線開通に伴う事業、これは国が行っている大きなプロジェクトでございます。なおかつ、広域的にしらおいも関係してくる事業でございます。このことや、オリンピッ

ク・パラリンピック、これも白老の象徴空間がそれまでに間に合わせるといふ国のビッグプロジェクトでございます。なおかつオリンピックだけではなくパラリンピックも付き人の方たちも一緒に見に来ていただける、参加していただける、そのような多くの人が動く事業になっております。そういったものが主な事業に掲載されていないという形になってございます。これらは国の重要施策であり、また、さきにも言いましたが、地方版総合戦略策定のための手引の中で推奨している広域的事業になるので掲載の必要があるのではないかと考えておりますが、その点の見解をお伺いしたいと思います。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

〔町長 戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君） 白老町まち・ひと・しごと創生についてのご質問であります。

1 項目めの「白老町創生総合戦略の内容」についてであります。

1 点目の「他市町村の戦略策定期間の違い」につきましては、国は自治体に対して平成27年度中の策定を求めています、27年10月末までに策定する場合、既存の基礎交付分に上乗せ交付として1,000万円を目安に交付をして早期に戦略を推進することとしております。さらに先駆性の高い事業に対して3,000万円から5,000万円を交付していることから、大きな理由といたしましては、上乗せ交付金の申請のため各市町村の策定期間に違いが生じております。

2 点目の「国の地方創生予算規模と交付金の内容」につきましては、自治体が自主性・主体性を最大限に発揮して地方創生に取り組み、地域の実情に応じたきめ細かな施策を可能にする観点から、地方財政計画の歳出に「まち・ひと・しごと創生事業費」1兆円を計上しております。28年度以降につきましては、総合戦略の期間である5年間は継続して少なくとも1兆円程度の額を維持するよう安定的な確保に努めるとしてあります。

今年度の地方創生先行型交付金につきましては、総額1,700億円で基礎交付分1,400億円と上乗せ交付分300億円となっており、来年度以降の新型交付金の内容につきましては7月以降に示される予定となっております。

3 点目の「人口ビジョンと総合戦略」につきましては、今後、町の人口目標の設定は進められますが、概要でお示しした推計は出生率を想定したものであり、詳細の検討はこれから行う予定であります。各自治体を示す人口目標は独自に推計することとなっておりますが、今後、国や道の推計も考慮してまいりたいと考えてあります。

また、国との出生率目標の差異につきましては、各自治体における状況に違いがあることから、国からはその違いについての問題は示されておられません。

4 点目の「新幹線やオリンピック・パラリンピックに対応する事業の必要性」につきましては、国や道の主要事業であることから整合を図っていくとともに、町にとっても、その効果を反映することで影響が大きい事業であると捉えており、総合戦略に、観光戦略による広域連携や雇用の拡大、オリンピック・パラリンピックにかかわる文化戦略の推進など取り組み項目として検討してまいりたいと考えてあります。

○議長（山本浩平君） ここで暫時休憩をいたします。

休憩 午前 11時56分

再開 午後 1時00分

○議長（山本浩平君） それでは休憩前に引き続き、一般質問を続行いたします。
10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 質問を続行させていただきます。ただいま回答いただきまして、総合戦略の策定期期のずれについて上乗せ交付金の申請ということで1,000万円を目安に交付されて、またさらに先駆性が高ければ3,000万円から5,000万円ということで、策定期期のずれの意味がよく理解できました。早期の策定の努力に大いにこれは私は評価をさせていただきたいと思います。他の自治体がなかなかこの10月までというのは策定が難しいということで断念している自治体があるにもかかわらず、白老町は取り組んでいるというその努力に本当に敬意を表したいと思います。ぜひ、27年度の上乗せ交付金の最大限の獲得にご尽力をいただければというふうに思います。また、②ですが国の地方創生の予算規模、交付金の内容についても、ご回答いただいた内容でおおよその理解ができました。ぜひ、28年度に向けても新規の獲得に向けて、これも本当にご尽力を重ねてお願いをしたいなというふうに思っております。三つ目の人口目標そして出生率についてでございます。これも昨日議論があったところですが、人口ビジョン・総合戦略については、平成27年度の上乗せ交付金、平成28年度の新型交付金を得るために、現状の分析、調査そして可能性が重要と考えております。きのうの同僚議員との議論で、人口の目標設定や出生率の目標はシミュレーションとして掲載したというような回答がございました。現状の人口を維持する目標にというような答弁もありましたが、それで間違いないかどうかまず確認をさせていただきたいと思います。

○議長（山本浩平君） 高橋企画課長。

○企画課長（高橋裕明君） 人口ビジョンにおける目標でございますが、さきに提出していただきました資料につきましては、今、お話があったようにその時点における出生率を中心にしたシミュレーションということでお示ししております。最終的にはまだこれから検討を進めるわけですけれども国が示しているような人口を維持する出生率2.07というものの検討を進めてまいりたいと思っております。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） 私もそのような目標を立てていくべきかなというふうに考えてございました。ぜひ、やはり国が目標立ててそこに向かっていくということで、今回この交付金を支給するというような趣旨に立っていると、私は認識をしておりますので、やはり国に近い数値目標を設定するのが採択といったらちょっと語弊があるのかもしれませんが、厚い支援を受けるためには、それなりの目標設定そして出生率を設定していくのがベストだと思います。それらを考えたときに、白老町では低い低いと言われてますが、どの程度までの出生率を想定で

きるか。今現時点でお考えがあれば国に近くというようなお話もありましたが、現在低いことを考えればそこまで本当に持っていけるのか、お考えがあればお伺いをしておきたいと思いません。

○議長（山本浩平君） 高橋企画課長。

○企画課長（高橋裕明君） これからの目標設定になるかと思えますけども、現在白老町は国に約0.2ポイント低い状態でございますので、それを解消していかなければならないということになります。これから、20年、30年後の話にはなりますけども、その間にいかに生産者人口といえますか、子供を産む世代の方たちに白老に住んでいただいて、そして生み育てやすい環境をつくっていくかにかかってくるわけでございます。ですから、そういう対策も含めながら何とか国が示しているような、2.07に向かって取り組みを進めてまいりたいというふうに考えております

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

〔10番 小西秀延君登壇〕

○10番（小西秀延君） それはぜひ国の目標に近い2.07に向かうように、計画の策定をよろしくお願ひしたいと思います。それでは少し細かくなっていきますが、ここから④の事業内容について触れさせていただきたいと思えます。白老の総合戦略で青年畜産農家支援事業や、観光振興が掲載されておりますが、ほかに、道と連携した白老牛の海外販路拡大や観光振興でいえば、現在行われている広域観光の拡大を強調したほうが政策的に国に理解されやすいのではないかとこのように私は考えております。また、新規の事業として、道の駅を基盤とした防災拠点、町民の憩いの場、地域産業物産市、そして観光客の流れなど、海外でも今この道の駅について紹介されつつあるという現状にあります。仙台陣屋の整備や観光客が町内を周遊できる環境づくりが私は白老の特徴として取り上げられるのではないかとと思えますが、その辺あたりのお考えはいかがでしょう。

○議長（山本浩平君） 本間経済振興課長。

○経済振興課長（本間 力君） しらおい牛を含めて海外戦略、それから広域観光、それと道の駅の部分で何点かジャンルの部分でのお話でしたが、まず道の駅に関しましては、以前から観光協会のほうで主体的に取り組みをして検討いただいているところでありまして、最近でいきますと、先日観光協会の総会が開催された中で冒頭町長の挨拶の中でも、協会のほうには道の駅の検討ということも述べていただいている状況でございます。我々セクションといたしましては、この道の駅という捉えもそうなんですけど、小西議員もおっしゃったとおり周遊性を高める上での一つの拠点づくりとしては、ファーマーズマーケットであったり、富良野あたりが成功事例として今取り上げられていますがそういったマルシェ機能、そういった拠点という部分が結果道の駅というような取り組みに発展すれば理想的だと思っておりますし、当然、道の駅の必要性は今現在も考えておりますし、いずれにしましても町内の拠点づくりでいきますと、やはり虎杖浜・竹浦地区、社台地区それからこの白老地区というような、その周遊性の部分ももう少しそれぞれ周遊性を高めるネットワーク化という上での拠点づくりの必要は感じ

ておりますので、その辺はこの2020年を迎える中で取り組みを早めに整備できるような検討していきたいと考えております。広域観光の面に関しましては、オリンピック・パラリンピックの流れでいきますと、特に西胆振広域観光圏協議会の中で既に取り組んでございます。特に北海道の中でも、これからインバウンドが300万人を目標として掲げている以上は、先駆してプロモーション活動や招聘事業も取り組んでいる状況でございます。その中で、一つには、今博物館の中でもここ3年ぐらいでかなりの伸び率を占めているのがタイのほうでございます。タイの中ですと博物館でいけば昨年度で2万5,000人を超えた状況で、23年では7,000くらいの数字で2万2,000人から2万5,000人ということで非常に高く伸びてきている状況でございます。そういう中でやはりそういった富裕層、それから空港アクセスも含めて西胆振広域圏の中で白老町の今後の基盤も含めてなんです、徐々に発展していく流れで広域観光にも力を入れていきたいと思っておりますし、その一つのイベントで昨年9月に実施した「うまいっしょ北海道」で白老牛を今回初めて輸出することができました。背景としましては、これは道の国際経済室のほうの協力を得た中で、白老牛の販売戦略会議の中で輸出勉強会という一つのくくりと西いぶり広域観光圏の協議会のもともともあるプロモーションが一体としてやられた事業として、迎える準備としてこういった実績をつくったことは非常に大きな成果があったと思いますし、また間接的にバイヤーさんのほうの動きにもつながったところもありまして、特に日本国内の動き中で沖縄県が海外への輸出へのハブ化を県を挙げて取り組んでいるという状況がございます。そのバイヤーさんの流れとして送り込む手段がもう一つ可能性が出てきているということで、今現地の中でも白老町の中にそういった視察等もこのたび行くこともありまして、今後はそういった可能性もどんどん膨らんでくるかなという期待もありますし、また、タイのほうから白老町においしい肉を食べて、アイヌ民族博物館を見ていただくという流れは徐々に高まるかということで期待していきます。ちょっと長くなりましたけれど以上です。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

[10番 小西秀延君登壇]

○10番（小西秀延君） 大変詳しくご説明をいただきましてありがとうございます。私の言わんとするところは、それだけのいい事業を白老町本当に行ってきております。それをぜひこの白老町まち・ひと・しごと創生総合戦略、いま概要版で見せてもらってますが、これからつくり込みを行う上でそれらのものをきちんと広域で行っているんだと、道と連携もして行っているんだということをきちんと私はこの中でうたっていくべきだというふうに考えております。先ほどもご説明した国の策定の手引の中ではただの産業振興にとどまらず、広域、複合、特色を大変重要視した内容となっております。それをこのビジョンの中できちんとうたうと、それがやる気のある自治体かそうでないか、そのしんしゃくする材料になるんではないかというふうに私はとらえています。その辺、町側の捉え方はどのような形でしょうか。

○議長（山本浩平君） 高橋企画課長。

○企画課長（高橋裕明君） ただいま小西議員のおっしゃったとおりです。今回の総合戦略をつくっていくに当たりまして、今手引きのお話があったけれども、町長の答弁では7月ご

ろに新型交付金の詳細が出るだろうということでしたが、現在の得ている情報では新型交付金の優先項目といたしましても、先駆性のある事業、それからこれまでやってきた既存事業の隘路を発見して解決するような事業、それから広域的な横展開できるような事業を優先するという情報を得ておまして、やはりその広域的な展開ですとか、現在白老町では、新幹線でいえば日胆戦略会議という広域的なものもありますし、苫小牧との先日の定住自立圏構想というものもございます。観光面では、観光圏の連携がございます。そういうものをきちっと戦略に盛り込みながら、交付金との関係もありますので、盛り込んでまいりたいというふうに考えております。

○議長（山本浩平君） 10番、小西秀延議員。

[10番 小西秀延君登壇]

○10番（小西秀延君） 冒頭に言いましたが白老町が大きくこれからまちが変わる要因の一つが、この地方創生かなというふうに認識しております。今ちょっと具体例で3点ほど挙げさせていただきましたが、そのほかにもこれから議会ともきちんとして行政も話し合うべきという国の指針もでております。われわれ会派もまだこれ以上にもっと意見をざっくばらんに町側と議論をしながら、本当にいい総合戦略になるように協力をしていきたいというふうに考えております。この地方創生には画一的な自治体への交付ではなく、やる気のある自治体へ交付すると、そのような基準があるというふうに伺っております。そのやる気のある自治体だという気概を町長からお聞きをして、私の質問の最後にしたいと思います。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） この総合戦略は、国の人口減少や経済対策等々含めて、日本の国がどういうふうに変わっていくのかというところで、国と都道府県と各市町村が一緒の目的に向かっていくのがこの総合戦略だと思っております。その中に、今、小西議員が言われたとおり、やる気のあるところに交付するというお話なんです、やる気のあるところとやる気のないところをどういう判断をするんだというところが、国のほうは求めているところでもありますので、先般戦略会議でもお話をさせていただいたんですが今まで従来の計画づくりは、ある意味画一的なまちづくりで金太郎あめのような計画だったと思うのですが、もう金太郎あめの計画は許されないと。各市町村の区別をきちっとつくっていかなければならないということで、そこに白老町の総合戦略としては、2020年の象徴空間もありますので、こちらの共生のまちづくりを中心に、白老町としては総合戦略をつくっていきたいというふうに考えておりますし、この共生のまちづくりというのはいろいろな分野で使われると思っております。教育、高齢者、子供たち、福祉、経済、文化全てに通じると思っておりますので、この総合戦略策定するに当たり有識者会議もあわせて先ほど議会ともというお話がありましたので、議会の議論も大切だと思うのですが、この場だけではなくて議員さん一人一人のまた知識などがあると思いますので担当課とも、これは縦割り行政ではなくて横のつながりが非常に大切だと思いますので、その辺もこちらにご指導いただければと切にお願いを申し上げたいというふうに思います。また2020年はちょうど東京オリンピック・パラリンピックの年でもありますので、先般オリンピック・

パラリンピックを活用した地域活性化推進首長連合というのが立ち上がりまして、私も出席を東京のほうでしてきたのですが、これからこのオリンピック・パラリンピックが来ることによるので、スポーツだけでなく文化や経済も通した活性化の推進ということで情報を集めながら、ほかの町にはない白老町らしい戦略をつくっていきたいと考えております。

○議長（山本浩平君） 以上で10番、小西秀延議員の一般質問を終了いたします。